



パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.137 2025年5月30日発行
全国牛乳パックの
再利用を考える連絡会

TEL 0554-22-3611

1985年5月30日全国パック連発足、おかげさまで40年 洗って、開いて、乾かして、そのひと手間をありがとう

「捨てればごみ、拾えば資源、洗って開いて乾かして、このひと手間が地球を救います」をキャッチコピーに全国へと広がった牛乳パック再利用運動。

牛乳パックのリサイクルで地球を救うなど大層な?!と思われるかもしれませんが、牛乳パックを暮らしのレンズにして、環境・リサイクル・教育・福祉・文化・人と人とのつながりについて考え行動することが地球規模の問題解決の一步となる、という考え方が基本の運動でした。

1990年代に入ると、台所から環境問題を考えるきっかけとして牛乳パック再利用運動はますます注目されるようになり、各地に様々なネットワークが誕生していきました。

サザンオールスターズの原由子さんも1990年5月8日付の新聞取材に、環境への関心を示しながら、牛乳パック回収に協力されていると答えて下さっていますが、環境問題の解決に個人ができることとして、牛乳パックという素材は非常に身近だったことの証といえます。1992年にブラジルのリオジャネイロで開催された地球サミットは、さらに牛乳パック再利用運動を後押しすることとなり、消費者に近い立場である大手量販店や生協が店頭回収や共同購入ルートでの回収を始めるようになりました。これまで市民ボランティアで回収・ストックなどを担っていましたが、スーパーへ持参することで一般市民が協力しやすい体制が整って行きました。

日本の牛乳パックリサイクルシステムは世界に誇る文化である、といわれてきました。

作家の司馬遼太郎が「文明」と「文化」（アメリカ素描）の一説に『文明は「たれもが参加できる普遍的なもの・合理的なもの・機能的なもの」をさすのに対し、文化はむしろ不合理なものであり、特定

の集団(たとえば民族)においてのみ通用する特殊なもので、他に及ぼしがたい。つまりは普遍的でない。例えば青信号で人や車は進み、赤で停止する。この取り決めは世界に及ぼしうるし、げんに及んでもいる。普遍的という意味で言えば交通信号は文明である。逆に文化とは、日本でいうと、婦人がふすまをあけると、両ひざをつき、両手であけるようなものである。立ってあけてもいいという合理主義はここでは成立しえない。不合理こそ文化の発光物質なのである。同時に文化であるがために美しく感じられ、その美しさが来客に秩序についての安堵感をもたらす。ただし、スリランカの住宅にもちこむわけにはいかない。だからこそ文化であるといえる。』と文化の真理を表しています。

日本の牛乳パックリサイクルの「洗って、開いて乾かして」は手間であり、牛乳パックの単独回収は非効率に見えますが、禁忌品であったがゆえにひと手間をかけ分けて出すことが保管上の衛生面においても

5月8日 水曜日



「子どもと空を見て、あつ、星がきれいね、なんていう生活が好き。結婚して精神的に安定し、今は子どもから教えられることが多い」。環境問題への関心が育児を通じて高くなつて、無農薬野菜を積極的に選んだり、牛乳パックの回収活動に協力しているそうだ。

回収に携わる方の労働面においても、資源価値においても司馬氏の表現通り秩序と安堵感をもたらしていることは周知の事実です。

ところが関係者の協議がなされないまま、コストパフォーマンスだけで紙パックとアルミ付き紙パックとの混合回収が効率的と、LL 紙パックリサイクル推進研究会（LL 研）という業界研究会で合意されている状況が確認されました。

牛乳パックリサイクルをずっと支えてくださった関係者から「日本のリサイクル運動の見本とまで言われていて世界一を誇るシステムが崩壊してしまう」といった懸念や協議の場を求める声が寄せられました。

そのため国行政を訪ねて情報共有を行った中で、紙パックを受け入れている家庭紙メーカー、古紙回収事業者、紙容器メーカーが一堂に会して協議する場の必要性を訴え、「飲料用紙パック回収システム強化検討会」を立ち上げた際の参加を依頼すると、各担当官から理解をいただきました。

すぐに会場を選定し、呼びかけ先や検討会の内容を決め、案内を発送して5月23日に国行政をはじめ北は札幌から南は熊本と、30名の参加を得て第1回検討会をビジョンセンター東京駅前にて開催しました。

当検討会は、全国パック連と牛乳パック再利用マーク普及促進協議会の共催で3回の開催を予定しています。第1回目は問題点の洗い出しを主な目的といたしました。

基調報告として、関西の店頭で混合回収が始まり影響を受け始めている関西ミルクロードの会運営委員・NPO 法人碧いびわ湖の村上悟代表理事と尼崎パツクルネットの永岡亮代表をお招きしました。

両団体ともに、長年地域や人とのとのつながりを大切にしながら紙パック回収事業に携わっていて、混合回収が何の前振れもなしに始められたこと、回収現場において手選別でアルミ付き紙パック（未ざらし紙パック含む）を分けている現状などを報告されました。

また、LL 研がどのような組織なのかを元座長を経験されたOBの方より説明をいただきました。紙容器メーカーと中身メーカーの任意の会で、年間の活動も勉強会・施設見学会・通信便りの発行程度であり、研究会内で混合回収を合意したからといって、既存の紙パックリサイクルシステムに混乱をきたす権限など全くない組織であることを確認しました。

その会に所属している紙容器メーカー4社が今回の検討会に参加されましたが、2社は混合回収について反対を表明され、その理由としてグループ会社でアルミ付き紙パック及び未ざらし紙パックの受け入れが不可であるということでした。1社の方はLL 研の担当ではないとしながらも、混合回収という言葉さえ寝耳に水であり、このような問題に至っていることに驚きを覚えていらっしやいました。

古紙問屋や回収事業者の現場ではまだ影響は顕著でないが、混合回収後の分別を担うことには否定的でした。

各立場から出された問題点を国の担当官に聞いていただけたことは第1回目の成果と思っておりますが、本来このような協議の場を紙パックリサイクル関連の業界団体が開くべきでは？との声もありましたが、要請しても開かれることがなく、全国パック連で立ち上げた次第です。



第4回ひまわり環境寄席 今回も大盛況

去る5月6日（火）武蔵野公会堂にて、林家カレー子さん主催のひまわり環境寄席が開催されました。トイレトペーパーの提供をさせていただいたので招待券が届き、代わりにサポーターさんに行っていたできました。今回は昼席1回でしたが、満員の来場者で会場は活気と熱気であふれていたそうです。

牛乳パック回収コーナーも設けられ、カレー子さんが積極的に地域の方に牛乳パックリサイクルの大切さを働きかけ、チラシにも掲載して下さったので集まり状況も良く、お一人で百枚以上を地方から持ってこられた方もいらっしゃったそうです。環境寄席で集められた牛乳パックは、山田洋治商店さんのご協力で横付けされた車に次々と運ばれていきました。

混合回収の既成事実をつくり既存の回収システムに影響を及ぼすということが、こうした牛乳パックリサイクルに携わる方々の思いを踏みにじることにつながると、紙容器メーカーや中身メーカーには熟考していただきたいものです。



プログラムへ寄稿させていただきました



平井 成子 全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 代表



第4回ひまわり環境寄席の開催、心よりお喜び申し上げます。

林家カレー子さんには、お住いの地域の方々へ熱心に牛乳パックリサイクルをはたらきかけていただき、また今回もひまわり環境寄席において牛乳パックの回収を呼び掛けてくださり、大変感謝しております。

おかげさまで当会もこの5月30日をもって、40周年を迎えることになりました。

感謝の気持ちとしてご参加の皆様、そして本日牛乳パックをご持参いただいた方に、牛乳パック再生トイレトペーパーを差し上げております。

ところで、昨今トイレトペーパーやティッシュペーパーも他の生活用品同様、価格が上がっていると感じていらっしゃるかと思います。

紙の生産や、製品を運搬するためのエネルギー価格や資材等の原料価格の上昇などが要因ですが、デジタル化で古紙の発生量が減少し、製紙原料の確保が厳しく、海外から古紙の5倍と言われる高いパルプを輸入して使用していることも関係しています。

牛乳パックはそのパルプの代替えとして貴重な製紙原料なのですが、依然として紙パック回収率は全体で38%程度、家庭からの紙パックに限定すると回収率は29%とさらに低くなっています。廃棄されている量は？というと123,000トン。これは36億9千万枚の紙パックに相当する量です。この捨てられている紙パックでトイレトペーパーがいくつできると思いますか？なんと6億1500万のトイレトペーパーに相当します。

牛乳パックを捨てることは、今後ますます高騰すると思われるパルプを輸入してトイレトペーパー、ティッシュペーパーなどの家庭紙を生産するしかないという悪循環につながります。

原料高が続いている現在、今一度再生可能な牛乳パックや古紙に目を向けて、リサイクルへのご理解を深めていただき、牛乳パックの回収にご協力くださいますようお願い申し上げます。（▲アルミ付き紙パックの混入にご注意ください。茶色の紙が使用されているものが最近多くなってきています。牛乳パックと一緒に回収できません▲）

最後になりましたが、ひまわり環境寄席のご盛会とカレー子さんご家族のご活躍、お集まりの皆さまのご多幸をご祈念申し上げ、メッセージとさせていただきます。



集まった牛乳パックは次々と山田洋治商店の車へと移動

輪島市より義援金のお礼状が届きました。

二度にわたる大規模な自然災害に見舞われ、被災された方々のお気持ちを考えると言葉がありません。復興への道のりは本当に厳しいことと拝察いたしますが、まだ昨年のことです。

昨今の米騒動で復興の進捗状況もニュースに上がっていませんが、忘れずに被災地を思う気持ちを持ち続けることが大切ではないでしょうか。

御 礼

義援金をお寄せいただいた皆様へ

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、去る1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、本市におきまして、かつて経験したことのない未曾有の被害を受け、多くの尊い市民の生命と財産が奪われました。

また、9月21日から23日にかけて発生した能登半島豪雨により、更なる被害が加わりました。

このような中、皆様から義援金を賜り、感謝の念に堪えません。皆様の心温まるご厚情に対し、市民を代表して心から御礼申し上げます。

皆様からお寄せいただいた義援金につきましては、被害に遭われた方々の生活再建の援助金として、また、本市の復旧・復興のために、有効かつ大切に活用させていただきます。

皆様からの御支援のお気持ちは、生活再建へ努力している被災者の方々にとりまして、大きな心の拠り所となり、復旧・復興への希望となります。

これまで、全国、多方面から力強い支援や数多くの激励を賜り、復興への歩みを進めておりますが、決して平坦な道ではなく、長い時間を要すると考えております。

安心・安全に暮らすことのできる日常を取り戻すため、皆様のご支援を励みに、1日も早い復旧・復興に向け、市民一丸となって、全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の今後ますますのご健勝を心より祈念申し上げ、御礼の言葉といたします。

輪島市長 坂口 茂

◎パック連通信は、ホームページにも掲載しています。

◎牛乳パックリサイクル・牛乳パック再利用マークについてのお問い合わせは

全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 / 牛乳パック再利用マーク普及促進協議会

TEL.0554-22-3611

FAX.0554-56-9216

E-mail info@packren.org

ホームページ <http://www.packren.org>

〒401-0012 山梨県大月市御太刀 1-2-10